

ぶんぱくあり方検討会からの提言書について

ぶんぱく(明石市立文化博物館)は、平成3年に開館して以降、34年が経過し、施設の老朽化をはじめ、運営体制のあり方や専門職の育成、また、増え続ける博物館資料の保存や整理などさまざまな課題が生じています。

そのようななか、市民に愛され、何度でも訪れてもらえる博物館になるためのぶんぱくの果たすべき役割や今後の取組などに関して検討を行うため、昨年8月に、ぶんぱくあり方検討会を設置し、議論を重ねてまいりました。

この度、11月21日付けで、検討会より、提言書が提出されましたので、報告いたします。

1 主な検討の経緯について

(1) ぶんぱくあり方検討会

2024年8月16日～2025年10月10日 全5回

(2) 職員からの意見聴取

2024年10月11日～2024年11月25日 職員延べ40人より意見聴取

(3) 市民ワークショップ

2025年2月2日 市民19人参加

2 提言内容について(別紙 ぶんぱくのあり方に関する提言書参照)

(1) 基本理念

“明石の「文化と歴史」の拠点 市民をつなぐ博物館”

(2) 基本方針

① 博物館固有の機能の強化

博物館の基本的な活動である、資料の収集・整理・保存・調査・研究・展示・教育普及(コミュニケーション)を、だれにでもやさしい博物館としての視点で、確実かつ安定的・継続的に行うこと。

《主な取組》

- ・博物館活動を安定的・継続的に行うための運営体制の見直し
- ・専門性を支える人材の確保と育成
- ・博物館収蔵品の一元的な管理体制と収蔵機能の確保
- ・博物館活動に必要なスペースの確保
- ・「登録博物館」への移行

② 明石の文化と歴史を後世に伝える

これまでの明石の文化と歴史を市民に伝え、後世に継承していくため、博物館の役割である資料の収集と保管を確実に実行し、調査研究活動を充実させること。

企画のテーマと内容の精査、市内各所での展示、デジタル化など、市民に伝える方法を工夫し、明石の文化と歴史に関する資料と情報を確実に市民に届け、後世に伝えること。

《主な取組》

- ・多様な人々の興味をかきたてる多彩な企画の立案
- ・博物館活動を一人でも多くの人に届ける
- ・博物館の収蔵資料の現状調査と整理、情報登録、デジタル化と公開

③ 未来につながる明石の文化の発信と醸成

現代の明石の文化をはじめとする多様な文化や関連する活動をぶんぱくから発信し、市民と共に新たな文化を醸成することで、市民が明石への理解と愛着を深め、シビックプライドの形成につながる環境を整備すること。

《主な取組》

- ・博物館活動や多様な文化への理解を広げるプログラムの実施
- ・市内企業等とのコラボ・連携
- ・市民の創作・研究成果の発表への支援

④ 市民をつなぐ

「明石の文化と歴史」の拠点として、ぶんぱくが、これまでの日常生活では出会わなかった多様な人々が言葉を交わし、共に活動し、学び合い、交流する場となり、市民と社会の文化的な豊かさを育むこと。

《主な取組》

- ・市民が博物館の運営に関わることができる仕組みの構築
- ・博物館体験プログラムの充実
- ・くつろぎ・交流・キッズスペースの整備

3 今後の取組について

ぶんぱくあり方検討会からの提言を受けて、ぶんぱくが市民に何度でも訪れてもらえるような博物館になるよう、すぐに改善できることから取組を進めるとともに運営体制の見直し、人材の確保と育成など次期指定管理期間を見据えて検討を進めるもの、登録博物館への移行など中長期的な取組が必要なものについても継続的に検討を重ねながら進めてまいります。